

令和元年度 経済環境委員会行政視察報告書

経済環境委員会

委員長 江西 照 康

1 視察期間 令和元年8月7日(水)から8月9日(金)まで

2 視察先及び視察事項

(1) 8月7日(水) 静岡市
「海洋プラスチックごみへの対応について」

(2) 8月8日(木) 富士宮市
「ニジマスの養殖について」

(3) 8月8日(木) 豊橋市
「豊橋市の農業について」

(4) 8月9日(金) 豊橋市
「豊橋競輪場について」

3 視察参加委員

委員長 江西 照康

副委員長 金谷 幸則

委員 島 隆之

〃 東 篤

〃 佐藤 則寿

〃 柞山 数男

4 随行職員

参事(議事調査課長) 福原 武

議事調査課主査 本田 宏之

5 視察概要

8月7日（水）静岡市

人口70万人／世帯数31万8千世帯／面積1,411.83km²

(R1.7月末時点)

(1) 視察事項

海洋プラスチックごみへの対応について

(2) 視察の目的

近年、海洋プラスチックごみ問題は、日本のみならず世界的な問題となっており、早急に取り組まなければならない課題となっている。

静岡市は、SDGs未来都市、また、アジア初のSDGsハブ（拠点）都市に選定されており、SDGsの普及啓発に取り組んでいる。その取り組みにおける海洋プラスチックごみへの対応について、同じくSDGs未来都市として選定されている当市の参考とするもの。

(3) 取組みの概要

静岡市は、海洋プラスチックごみ問題に対する認識を高めるために、大型商業施設で市民への紙ストローの提供を実施、講師を招き海洋ごみ問題についての講演の開催、東海大学による深海魚の解剖実験のイベントにおいて、胃の中へのプラスチック片の混入の確認、さらには、「海のピンチを救おう！～みんなで考える使い捨てプラスチック～」という啓発イベントを2日間にわたり実施するなど、積極的に各種イベントで啓発活動を行っている。

また、静岡市庁舎内のコンビニエンスストアにおいて、職員へのレジ袋の提供を原則禁止にすることや、飲み物を購入する際の、マイタンブラー等の利用を促進するなど、来庁者や職員に向けた啓発も行っている。

今後は地元の漁業協同組合と連携して、漁を行う際に浮遊している海洋ごみを回収して調査する予定であるとのこと。

(4) 所感

〔江西委員長〕

静岡市は、富山市同様SDGs未来都市に選定され、さらにそのハブ都市に重ねて選定されている。富山市同様、SDGsを目指したのではなく、以前からの取り組みがSDGsに合致したものである。環境に対する取り組みはその一つで、海洋プラスチックごみへの対応としては、主にその啓蒙に力を入れ、例えば世界的に話題となっているストローへの取り組みを、市民の海洋ごみ問題への入口として活用している。

一般市民が、身近な問題から海洋ごみ問題について考えるきっかけの場を積極的に設けることは、未来都市へとつながるものであり、富山市においても検討を要すると考え

る。

〔金谷副委員長〕

紙ストローお試しの日や、静岡市関連の方々イベントなどに紙ストローを提供し、啓発活動を行ったり、海洋ごみの問題について、市民に対するイベントで啓発活動を行ったりと、積極的に発信を行っていた。また、連携を重視し、市内大学との連携や自治振興会・町内会とも連携を行い海岸の清掃活動なども効果のある取組みであった。SDGsに対しても企画局を中心に部局を横断し、全市を挙げて推進を行い連携がとれていたことも印象的であった。

本市においても、今後の環境の取組みや、SDGsの推進に対して参考になる視察であった。

〔島委員〕

静岡市の海洋プラスチックごみへの対応は、SDGsのハブ都市として、また、静岡県の6R県民運動と連携した世界的に見ても先進的な取組みが多くあるものと期待しておりましたが、実際の取組みは、富山市と同じく、始まったばかりで、試行錯誤の状況であることが分かりました。ただ、その中でも、市民に対する啓蒙活動に創意工夫を凝らし、浸透を図っておられること、紙ストローの実証実験をしておられること、また、県の6R県民運動のRefuse（断わる）を前面に押し出して、ごみそのものを出さないようにしておられることなど、富山市でもすぐに実践に移せるものが多いと感じて来ました。

〔東委員〕

静岡市は海洋プラスチックごみ対策として、市民への普及啓発に関しては、①大型商業施設で市民に紙ストローを提供、②海洋ごみに関する街頭アンケート、③タレントのさかなクンを講師に招いての海洋ごみ問題について講演、などを実施しています。

今年6月には、500万円かけて2日間にわたるイベント「海のピンチを救おう！～みんなで考える使い捨てプラスチック～」を実施しています。これだけの予算を組んでの取組みに、同市の海洋プラスチックごみ対策への強い決意を感じます。

これらの啓発活動により、スーパーマーケットではマイバック持参の客が増えてきたとのこと。またコンビニエンスストアにもレジ袋不使用を働き掛けていますが、まだ浸透していないとのこと。

富山市でも、コンビニエンスストアでのレジ袋不使用推進が課題の一つだと感じました。

〔佐藤委員〕

静岡市は、昨年の7月にSDGsのハブ都市に選定されたことを総合計画に組み込み、全面的に市民への啓発を進めている。

いわゆる「海洋プラスチックごみ」への先進的な取り組みについて具体策を学ぼうと視察に訪れたが、環境局がこれまでも着実に推進してきた環境施策を基本とした上で「海洋ごみ問題を知ろう」「海のスクラッチアート体験、紙ストローお試し」など、イベントを中心に市民への啓発を積極的に行い、今後、漁港沖や浮遊する海洋ごみを回収調査するとのことであった。そうした点では本市にも先駆的に取り組む責務があると感じた。

〔柞山委員〕

海洋ごみの課題が世界的に顕在化する中、「国際海洋文化都市」を目指す静岡市では、他都市に先駆け海洋環境を守るため、第3次静岡市総合計画にSDGsを組み込んで平成30年にSDGs未来都市、SDGsハブ都市に選定されている。SDGs17目標の特に12の「つくる責任・つかう責任」、14の「海の豊かさを守ろう」を軸とし、使い捨てプラスチックから環境負荷の低い製品への転換を目指して、使い捨てプラスチック製品の発生を抑制・回収強化・転換に取り組んでいる。

世界で進む海洋プラスチックごみ対策として海洋ごみが発生している実情や駿河湾で取れた魚を解剖して摂取の状態を観察するなどの啓発活動を通じた市民参加の取り組みを進めている。天然のいけす富山湾を擁している本市としても、海洋ごみの現状をより多くの市民に周知し、ごみの発生を抑制・回収強化・転換への取り組みが急務と考える。

8月8日(木) 富士宮市

人口13万2千人／世帯数5万7千世帯／面積389.08km²

(R1.7月末時点)

(1) 視察事項

ニジマスの養殖について

(2) 視察の目的

富士宮市では、豊富な湧水を活用し、ニジマスの養殖が80年以上前から盛んに行われており、ブランド化が図られている。

平成21年には、ニジマスを「市の魚」に認定するなどのPRも行っており、当市における農水産物の普及、PR活動の参考とするもの。

(3) 取組みの概要

静岡県は、平成29年におけるニジマスの生産量が全国第1位であり、富士宮市はその62.3%を占めている。

富士宮市では、富士山に降った雪や雨がたくさんのミネラルを吸収し、栄養満点の水となってたくさん湧いており、また、一年を通して水温が10度前後で、ニジマスを育てることに適しているため、盛んに養殖が行われている。

富士宮産のニジマスの中には、体重2キログラム以上の「紅富士(あかふじ)」や体重5キログラム以上の「湧幻鱒(ゆうげんます)」というブランドがあり、大変人気のある商品となっている。

また、富士宮市には、農業政策課畜産・養鱒係という係があり、各種イベント、テレビ番組等でニジマスをPRするなど、養鱒業の維持・発展を支えている。

市内で「富士宮の食と聞いて思い浮かぶものは(複数可)」とのアンケートを取った際には、46人中21人が「ニジマス」と回答したとのことで、ニジマスがごく身近なものと認識されていることがうかがわれる。

(4) 所感

[江西委員長]

富山の名物と言え、鱒のすしであるが、その原材料となる鱒はほとんどが外国産である。水に恵まれた地域であるにも関わらず、養殖などについて目立った事業展開がないことを不思議に感じていた。

富士宮市では、ニジマス養殖にすでに80年以上の歴史があり、現在も日本のトップシェアを誇っている。技術が発達し、5キロ以上の大型のブランド鱒の養殖技術も確立しており、高級な食材として重宝されているそうである。

公式視察の後、実際に養鱒場をのぞいてみたが、湧水量が想定以上であり、富山での同様の展開は難しく感じたが、中山間地の活性化の材料として、今後も研究が必要と感

じた。

〔金谷副委員長〕

富士山に降った雪や雨がたくさんのミネラルを吸収し栄養満点の水となってたくさん湧いているこの地域の特性を活かし、ニジマスを育てていらっしやった。平成21年にはニジマスを市の魚に認定し、行政も積極的にバックアップを行っていた。一つには広報を積極的に行いさまざまなイベントなどに取り組み、外部への発信を行っていた。二つにはブランド化に注力し、他のニジマスよりも大きく育て、差別化を図り富士宮市を代表するブランド商品を作っていた。

今後富山市でもエゴマや他の農産物の宣伝とブランド化に向けて参考になる取組みであった。

〔島委員〕

富士宮市のニジマスの養殖については、市の第一次産業のブランド化を図り、その生産量を伸ばし、地場産業として、定着させるための施策を実践しておられるものと思っておりました。が、実際は、地の利（豊富な低温の湧水）を生かして、約80年前から、行われてきた歴史ある取組みであることが分かりました。市は、各養殖業者が、ブランド化を進めてこられていたのをPRする役を担っており、そのことで、安定収入を得やすくし、より一層の第一次産業の定着や後継者問題の解決を図ろうとしておられることが分かりました。

富山市においても、地域の特産品を市が積極的にPRすることによって、収入の安定化や後継者問題の解決等、同様の問題を解決する一つの方法であると思いました。

〔東委員〕

富士宮市のニジマスの生産量は全国総生産量の14.2%を占め、平成21年にはニジマスを市の魚に認定し、市の重要な水産資源になっています。

農業政策課に畜産・養鱒係を設置して養鱒業の維持・発展を支えていることに、同市の支援への熱意を感じます。具体策として、①台湾の姉妹都市のイベントでブランド品種「紅富士」の刺身を振る舞い、併せて売り込む、②地元でのイベントで配布した卵を孵化させてもらいニジマスに親しみを持ってもらう、などのことに取り組んでいます。

一方、ほとんどが家族経営で後継ぎがいないと廃業し、多い時は28か所あった養鱒場が13か所に減っており、国内の第一次産業に共通した課題があります。

〔佐藤委員〕

ニジマスの全国総生産量の14.2%を占めるという富士宮市の養鱒場の歴史は古い

が、実は昭和8年、全国3番目のスタートであったとうかがった。

一方で、栄養満点の湧水が豊富であったという地の利が大きな要因であったと思われるが、漁業組合による養鱒場の取りまとめや製品開発、販売などブランド化の努力など民間の力を基本として、県の技術研究所による研究開発などの協力がなされてきた。

そうした中で、市は何ができ、果たす役割は何か。手作りの啓発冊子の作成やイベント開催など、そのテーマに真摯に行動する養鱒系の姿勢に感銘した。

〔柞山委員〕

富士宮市は静岡県のニジマス生産量の62.3%、全国総生産量の14.2%を占める養鱒業が盛んな地域で、富士山に降った雪や雨はミネラルを吸収し大量の湧水があり、ニジマス養殖に恵まれた環境で昭和8年から養鱒場が開かれてきた。最近では380トンと生産量も減少しているが3億3千万円の売り上げで、市としても地域ブランドとして重要である。

ブランド化に取り組み、体重2キロ以上の「紅富士」や5キロ以上の「湧幻鱒」があり、時間をかけて育て、上品な脂がのり大変おいしい人気のブランド商品で料亭や個人商店からの注文や海外への輸出もしている。

市役所に近い養鱒場を見学したが、大量の湧水を使っており、豊富な水量が必要で本市の中山間地対策として視察したが、条件に合う場所があるか調査が必要と思われる。

8月8日(木)～9日(金) 豊橋市

人口37万7千人／世帯数16万世帯／面積261.88km²

(R1.7月末時点)

(1) 視察事項

- ・豊橋市の農業について
- ・豊橋競輪場について

(2) 視察の目的

豊橋市は立地条件や気候にも恵まれ、農産物の生産額が全国トップクラスの農業王国であり、農業に関する様々な先進的取組みも行っている。

その取組みについて視察し、今後の当市における農業への取組みの参考とするもの。

豊橋競輪場については、近年ガールズケイリン選手の育成や、競輪場施設の整備等を行っており、同じく競輪場を持つ当市として、今後の運営の参考とするもの。

(3) 取組みの概要

豊橋市は、地形が平坦で気候が穏やかであり、大消費地（関東・関西・中京）に近く、豊富な水が安定的に供給されるなど、農業をするために大切な要素が揃っている地域であり、野菜、果実、畜産、花きなど様々な農産物の産地である。

販路においては、海外に向けても市職員が直接現地に赴いて情報収集や販売促進活動を行うなど積極的に取り組んでいる。

また、産学官連携の取組みとして、植物工場の管理運営をはじめとする先端技術に長けた農業人材の育成講座や、次世代農業を担う人材確保のためのインターンシップを行う次世代「農力」UPアカデミー事業を実施している。

その他、豊橋市において、令和元年度に農福連携推進事業検討会議を設置し、豊橋市立くすのき特別支援学校の農作業学習の過程・成果を検証し、現場で障害者を指導（支援）する者が活用できる指導手順書を作成するとのこと。

豊橋競輪場では、ガールズケイリン選手の育成に力を入れており、自転車競技に実績のある桜丘高校自転車部顧問が作成した育成プログラムに基づき、専属コーチによる計画的かつ実践的訓練を実施している。

平成28年には、豊橋競輪場施設等整備計画を策定し、バンクの全面改修や選手管理施設の建て替え、ロイヤル席（来賓席）の新設等を実施している。

また、ナイター照明設備を設置し、ミッドナイト競輪、ナイター競輪の本場開催を開始することにより、収益の改善を図っている。

来年には、豊橋競輪場初のGI「全日本選抜競輪」が開催される予定である。

(4) 所感

〔江西委員長〕

豊橋市の農業は、50年前の豊川用水の整備と東京と大阪のちょうど中間に位置する

優位性により、全国屈指の産業化に成功している。隣接する田原市と合わせると、富山市の僅か3分の1の面積で、富山県全体をはるかに上回る農業産出額を誇っている。

豊橋市役所は外国への売り込みを直接行うなど、豊橋市農業には積極的な行政によるバックアップがなされている。富山市においても高収益作物への転換が迫られており、県任せではない取組みが求められる。北陸の地からは、儲からない農業しかイメージできないが、今後も高収益を誇る地域の農業を研究していきたい。

豊橋競輪場では今年度よりナイター競輪とミッドナイト競輪への取組みを開始している。開催日数は一律の本場開催のほか、場外を含めると全国の競輪開催日のほぼ全日を営業していることになる。富山市においては近隣住民の理解が得られず、全競輪場の中でも最も営業日数が少ない上に、ナイター導入の目途も立たない。

豊橋市では、近隣の避難場所として期待されるなど、地域にとって愛される施設であり、富山市のどちらかといえば迷惑施設とは真逆である。この根本的な違いをいかに無くすかが今後の課題である。

〔金谷副委員長〕

豊橋市は全国9位の農産物生産額を誇る農業王国であり、70品目の農産物を生産している。交通の要所であり東京と大阪の間に位置しており大きな市場へのアクセスの良さも功を奏している。現在の取組みの中で興味深かったのの一つには連携である。産学官の連携を積極的に行い次世代の農業従事者の育成にも積極的に行なっていた。更には農福連携にも取り組み、労働力不足の問題に解決策を見出していた。二つには先進的な取組みとして、ITネットワークの構築や、6次産業への取組みなども参考になる事例であった。富山市での今後の農業政策に参考にしていきたい。

豊橋競輪場は、ナイター競輪やミッドナイト競輪に注力し、売り上げを着実に伸ばしていた。また興味深い取組みとしてはガールズケイリンに力を入れ、選手の宿舎やトレーニングの施設など充実し、指導者も備えることにより多くの選手が育っていた。その結果、来場者も増え収益も増加しているとのことであった。近隣の高校との連携も図り、競輪場を練習に使用するなど、未来の選手の育成にも積極的に取り組んでいた。立地的には富山市とは違いがあるものの、本市での今後の競輪事業運営にも参考になる内容であった。

〔島委員〕

豊橋市の農福連携推進事業の説明は衝撃的でした。障がい者が個性を生かせる農業の形を創出し、「農業」が障がい者の就労先の選択肢の一つとなるようにするという理念に、まず、感服しました。富山市も、すぐにでも取り入れられる施策を前向きに検討して欲しいと思いました。

また、豊橋市の農業は、豊川用水と恵まれた気候で、70品目もの農産物が育成されており、さらに、地の利を生かした販売網も確立されていることに驚かされました。水

の豊富さは、富山も負けていないとは思いましたが、気候条件が全く違うので、農産物の多品種化は、無理だと思いました。ただ、6次産業化を推進し、各農産品の付加価値を高め、販促活動を行政が後押しすることで、農業が抱えている諸問題を解決する糸口があるのではないかと思います。

豊橋競輪場は、設備投資を極力抑えながら、高収益が期待できるミッドナイト競輪開催を可能な競輪場に改修されたこと、また、地域住民の理解を得る対応をされたことなどで、観客動員数を伸ばし、高収益を得ることに成功されていました。また、女性選手の育成にも力を入れ、地元ファンばかりではなく、全国のファンの掘り起こしもされており、それらの取り組みで、GIの大きな大会の誘致にも成功されており、富山競輪も大いに参考にすべきと感じて来ました。富山競輪事業が、改善すべき課題は、たくさんありますが、豊橋の実践を参考に、優先順位を明確にし、大きな収益が得られる事業に転化できる方策を早期に打ち出し、改善すべきと感じました。また、富山競輪場は、ライトレールの駅から近いというのが大きな利点で、それを生かした集客を工夫すればいいのではないかとともに思いました。

〔東委員〕

豊橋市は工業や商業だけでなく農業も重要な産業となっており、70品目もの農産物が生産されています。中でもキャベツは隣接する田原市と合わせ全国の半分の生産量を誇っています。①温暖な気候、②豊川用水による豊富で安定的な水の供給、③地元の中京圏はもとより関東圏や関西圏など大消費地への出荷が有利、などの好条件が同市の農業を支えています。一方、①後継者不足による耕作放棄地の増加、②TPP、不安定な収入、など日本の農業に共通した課題があります。

同市の農業支援策は、①6次産業化商品の開発、②農産物の海外販路開拓、③地元企業や大学と産学官連携の取組み、④次世代農業人材育成を目的に地元大学に食農環境コース設置への支援、など先見性があると感じました。

豊橋競輪場は近隣自治体に同様の施設が多数立地する中、市の一般会計への繰出金を確保するため様々な取組みをしています。具体的には、①豊橋ガールズケイリン育成プロジェクト、②夜間レース開催による売上げアップ、③平成28年度から7か年の施設等整備計画を策定し、様々なリニューアルで観客や選手へのサービスの向上などです。

富山競輪場でも全国での取組みを調査し、市の一般会計への繰出金増加を図ることが求められます。

〔佐藤委員〕

農業王国と自称する豊橋市は、1,719の地方自治体の中で農産物の生産額は9位である。確かに、温暖な気候と豊川用水によって確保された豊富な水源、更には大阪東京間の中央に位置し物流拠点としての大きな地の利がある。

そうした中で行政職員は「こんなにすごい！とよはし農業」とアピールしていた。「農

業王国」という言葉さえ実は造語であるというから凄い。

農福連携の施策もお隣の浜松市に学び、今後の進展を期待するばかりであった。

競輪事業も、「豊橋ガールズケイリン育成プロジェクト」や施設整備など果敢に挑む姿勢に感銘した。

〔柞山委員〕

豊橋の農業は平坦な地形と穏やかな気候、古くから交通の要衝となるなど立地条件に恵まれ、生産性の高い農業地帯を形成している。露地野菜、施設野菜、果樹、畜産と地域によって特徴ある農業生産をしている。経営面積に占める畑地は57%、水田が32%、果樹10%と高付加価値農産物生産が進んでいる。

一方、地域随一の工業集積があり、747事業所、製造品出荷額1兆2367億円と高い。こうしたことから施設園芸などに関わる工業製品の開発をはじめ、AI化を目指す研究も積極的に取り組んでいる。産学官連携の取り組みや、次世代「農力」UPアカデミー事業など人材養成にも取り組んでいる。また、農産物の海外販路開拓にも積極的だ。東南アジアでは柿の需要が多いとのことで、実際、現地での情報収集の成果である。

本市としては学ぶことが多いが、まずは農業者同士の交流や人材の派遣など現状調査が必要ではないか。

令和元年8月7日（水）静岡市



令和元年8月8日（木）富士宮市



令和元年8月8日～9日（木～金）豊橋市

